

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



化石賞って

昨年 11 月にイギリスで開催された COP26 で、日本が受賞したこの「化石賞」とは……。この賞は 1999 年の COP5 から始まり、**気候変動対策で最も後ろ向きな行動や発言をした国に送られる不名誉な賞のこと**です。

日本は過去に何度もこの賞を受賞していますが、COP25 では時の環境担当大臣だった小泉進次郎氏の際にも受賞しており、今回不名誉なことに **2 回連続受賞**となっていました。

「電気運搬船」って

「**電気運搬船**」という言葉聞いたことがありますか？現在洋上風力などで創られた電力は、海底ケーブルを使って送電されていますが、海底ケーブルで送電する代わりに、**コンテナ型の蓄電池に電気をためて需要地まで運ぶ船のこと**です。

国内造船最大手の今治造船が「電気運搬船」の開発を目指すパワーエックス社と資本業務提携を結び、2025 年までに実用化を目指しているそうですが、実現すれば洋上風力発電に大きな役割を果たすことになりそうです。



「電気運搬船」のイメージ

ひとこと



既にご登録いただいております方もおられますが、ひらかた環境ネットワーク会議の LINE 公式アカウントができています。

月 1 回～2 回、主に講座やイベント情報の発信を行います。また、LINE での各種お申込みも受け付けています。ぜひご活用ください！

ご登録は簡単！

LINE アプリを開いて ホーム⇒友達追加⇒QR コードをタップして読み取り⇒友達追加で完了！



ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第 72 号

令和 4 年 1 月 1 日発行（年 4 回発行）

発行：（特活）ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町 5 番 1 号

サブリ村野内（旧村野小学校）

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

E メール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <https://hirakata-kankyou.net>

発行責任者：伊丹 均 編集責任者：丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 72
冬号

令和 4 年
(2022 年)

環境ひらかた



明けまして おめでとうございます

昨年も一昨年に引き続き、コロナ一色に染められた一年になってしまいました。しかし、そんなコロナ禍ではありましたが、夏にはオリンピックが開催されました。オリンピック開催をめぐってはいろいろな問題もありましたが、昨年末 2021 年の世相を 1 字で表す「今年の漢字」に“金”が選ばれたことで、オリンピックでの日本人選手の活躍は、コロナ禍という厳しい状況に、明るさと喜びを与えてくれたと感じる人が多かったのかなと思います。

私たちの活動も、より多くの方々に明るさと喜びを与えられるよう精進して参ります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



ご 案 内

2021 年度のエコフォーラムは、下記の通りサブリ村野にて行います。詳しくはチラシをご覧ください

記

開催日時：2022 年 2 月 5 日 10:00～13:00

場 所：サブリ村野

会 場：北館 101～104 号室及び南館環境情報コーナー・環境保全研修室・市民活動研修室

*ご来場の節は、出来るだけ公共交通をご利用いただき、お車でのご来場はご遠慮ください。

****目 次****

新年のご挨拶	P 1
「第 6 次エネルギー基本計画について」	
講演会報告	P 2・3
部会報告	P 4・5
お知らせコーナー	P 6
環境トピックス VOL. 38	P 7
環境ミニ知識	P 8

自然エネルギー学校 2021

「気候危機と第6次エネルギー基本計画」

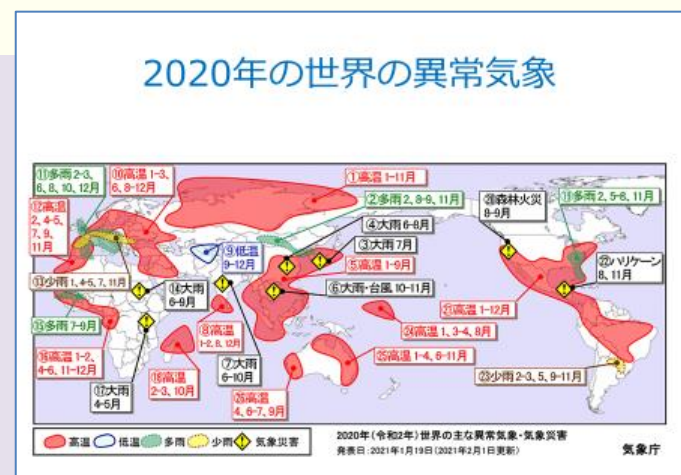


講師 NPO 法人地球環境市民会議
(CASA)専務理事 早川 光俊氏

昨年12月10日、自然エネルギー学校として『気候危機と第6次エネルギー基本計画 —COP26の結果と「パリ協定」実行のための市民の役割』をテーマに講演会を開催しました。講師には「NPO 法人地球環境市民会議」の専務理事で弁護士でもある早川光俊氏にお願いしました。コロナの感染拡大がおさまってきているとはいえ、新たな変異株であるオミクロン株の脅威が懸念されることもあり、対面とオンラインでの開催としました。会場参加者は13名、オンラインでの参加者は6名で、合計19名の参加での開催となりました。

講演では、世界的に広がる異常気象、大気中のCO₂濃度の推移、世界の平均気温の上昇、海水の酸性化等の現状等を紹介された後、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が公表した報告書の分析も使いながら、「人間活動の影響が大気、海洋、及び陸域を温暖化させてきたことは疑う余地がない」と結論付けられました。

更に、温室効果ガス濃度や平均気温が**臨界点(ティッピングポイント)を超えると、制御不能な状況**となり後戻りできない、どうしようもない状況になるなどのお話に続き、今回発表された「第6次エネルギー基本計画」の問題点を示されました。



環境トピックス

Vol. 38

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「再エネの2030年目標値達成のカギは?」「食品ロス4年連続の減少!」の問題です。

◆再エネの2030年目標達成のカギは?

昨年9月に出された第6次エネルギー基本計画には、電源構成における再生可能エネルギーの割合を36~38%とするとされていました。この目標を達成するためには様々な課題があります。その一つが、**送電線の容量不足**の問題です。現在一番多く導入されている太陽光発電ですが、太陽光発電所を作っても、送電線の容量不足でつなげないという課題が生じるのです。次に**国民負担の問題**もあります。現在FITの買取費用は消費者が電気料金で負担しており、昨年の平均的な家庭の年間負担額が1万円を超えたという事ですが、今後再エネを大量に導入していくには、さらなる負担が生じるという懸念があります。更に太陽光パネルの**設置に適した場所が少なくなっている**という問題もあります。また太陽光発電以外の再エネの導入も進めなければなりません。中でも大きな期待が寄せられている**洋上風力発電**ですが、日本メーカーは**欧州勢に大きく後れを取っている**という状況です。今後再エネの2030年目標値を達成するには、こうした課題を**どのように解決するかがカギ**となってきます。

(億 kwh)	発電電力量	電源構成
石油等	約 200 程度	約 2%程度
石炭	約 1,800 程度	約 19%程度
LNG	約 1,900 程度	約 20%程度
原子力	約 1,900~2,00 程度	約 20~22%程度
再エネ	約 3,300~3,500 程度	約 36~38%程度
水素・アンモニア	約 90 程度	約 1%程度
合計	約 9,300~9,400 程度	100%

<参考>

基本計画に、数値はすべて暫定的であり今後変動しうるとして、2030年度の発電電力量・電源構成について下記の数値を出している。また再エネの内訳についてはそれぞれ、太陽光約15%、風力約6%、地熱約1%、水力約10%、バイオマス約5%程度としている。

◆食品ロス4年連続で減少!

環境省は昨年11月30日、2019年度の食品廃棄物等及び、食品ロス(本来食べられるにも関わらず廃棄されている食品)の発生量推計結果を発表しました。

それによると、**2019年度の食品廃棄物等の発生量は約2,531万トン内食品ロスは、事業系で約309万トン、家庭系で約261万トン、合計約570万トンと推計され、前年より30万トン(約5%)減少**したことになり、4年連続で減少となったという事です。

「食品ロス」についてはこのコーナーで取り上げたこともあり、以前から問題になっていました。「食品ロスの削減の推進に関する法律(食品ロス削減推進法)が令和元年3月31日に閣議決定されたこともあり、運動としても食品ロスの削減の取組が進められてきましたが、**一時的ブームに終わらせず**、持続可能な社会のためにも継続されることが望まれます。



部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

環境教育部会

環境くらわんか塾

「環境教育ボランティア講座」を開催しました

新型コロナウイルスは、人の健康だけでなく私たちの活動にも大きな影響を与えています。昨年9月に予定していた「環境くらわんか塾」は、新型コロナウイルスの感染拡大により見学会も講座も中止になりました。しかし緊急事態宣言の解除後、見学会は見学先の受け入れ許可が下りず実施できませんでしたが、講座は10月23日(土)に開催することができました。

当日は、会員10名、会員外1名、市役所の担当課から2名の参加があり、参加者の方々は10時から15時まで熱心に受講されました。

午前の部は、ひらかた環境ネットワーク会議の紹介、枚方市の第三次環境基本計画と取り組みの紹介、それに続いては、講義形式で「環境問題の現状と実態」としたタイトルで今起きている緊急課題である地球温暖化と、その問題にどう向き合い何をしなければいけないのか等学んでもらいました。

午後の部は、『子どもたちの未来のためにできること』をテーマに、3つのグループに分かれてディスカッションをしました。

最後に環境出前授業の取り組み紹介をして、今年度の「環境くらわんか塾」を終えました。参加者から「わかりやすく、皆さん熱心でびっくりしました。」「もっと多くの学校で出前授業が行われたらいいのに」「このような講座にもっとたくさんの方も参加されたいのに」といった感想が語られました。



今、地球上では温暖化による大雨、洪水、巨大化する台風、竜巻、森林火災などが各地で頻繁に起こっています。私たちは現状をしっかりと把握し、周りの人や子ども達にも伝えていき、すぐに実行できることから行動を起こしていく必要に迫られています。

自然エネルギー部会

ピコ水力のデモンストレーション と 講演会を実施しました

コロナで延期になっていたピコ水力発電のデモンストレーションを11月11日に、香里ヶ丘“こもれび水路”で実施しました。しかし、デモンストレーションと言いながら、残念なことに水路の水を循環させるモーターの故障で水路の水は流れていませんでした。それでも参加者や道行く人は螺旋型ピコ水力発電の実物を目にし、そしてそれを軽く手で回すだけで点灯することに興味を持つと共に驚かれていました。

また12月10日に開催した講演会(2-3ページに関連記事記載)では、参加者から「地球温暖化問題の具体的なデータ値の確認と世界の地球温暖化対策の取り組みについて再度確認が出来ました。」「分かり易く、グローバルな視点でのお話でよかった」「まず知ることからという事で参加したが、新しい知識を得ることができた」等の感想をいただきました。今回の講演会、もっと多くの参加があればと思った次第です。



環境ティールーム

今回のテーマは「地球温暖化が進むとどうなる？」

私たちの暮らしはどう変わる ～食べ物編～

毎回その時々によってニュースになっている事柄や身近なところでの話題を取り上げ、お菓子をつまみお茶を飲みながら参加者同士お喋りをするという「環境ティールーム」の第6回を12月9日に開催しました。

さて今回は「地球温暖化が進むとどうなる？私たちの暮らしはどう変わる？ ～食べ物編～」をテーマにお喋りしました。私たちの知らないうちに、おコメが温暖化の影響を受けにくい品種に改良されていたり、海流の変化で獲れる魚類に変化が起きていることなど、初めて知ることも多く、参加者同士「この先どうなるんやろねえ・・・」と不安を口にしながらも、「温暖化対策をしていかんとあかんねえ」「もっと真剣にならんとあかんね」など温暖化問題への想いを出し合いました。

次回は「住まい編」、2月17日に行います！



お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネット会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

◆◆◆エコキャップの回収報告◆◆◆

●エコキャップ R3年11月5日搬入分



重量：260kg （取組開始からの累計 7,871.8kg）
個数：111,800個 （取組開始からの累計 3,384,874個）
CO₂削減量：819kg （取組開始からの累計 24,796.17kg）

エコキャップの取り組みを通して、環境問題に関心をもち行動するきっかけとなることを願っています

搬入したエコキャップは、再生プラスチック原料として換金され、公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、全国で病気の子供とその家族が利用できる滞在施設の建設費及び運営に充てられます。詳しくは公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのH・Pをご覧ください。

バス!のってスタンプラリー 締め切り間近です!

皆さんはもう廻られましたか?

昨年10月1日から始まった第31回「バス!のってスタンプラリー! “くらわんか茶碗をさがせ!”」は、いよいよ1月10日が最終日です! 市内公共施設に設置配布しているスタンプシートと、交通タウンマップを手に新年の枚方の町をめぐるってみませんか?

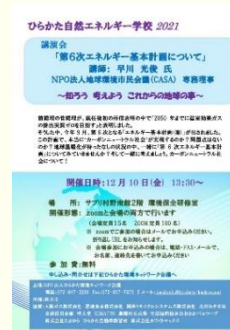
♪*♪*♪*♪*新人職員のご紹介!♪*♪*♪*♪*

はじめまして。11月より職員として働く米田 有佳(よねだ ゆうか)と申します。環境について特に詳しいわけではないので、熱意を買っていただいての採用だと思っています。目下エコノートについて勉強中です。エコノート、たくさんの方が取り組んでいるのを目の当たりにして、とても驚いています。皆さん本当に丁寧に書いてくださっていて、心の中で毎度驚きの声を上げています。天候・気温、エコ家電やソーラーなどの設備等々、様々なものの影響を受けるガス・水道・電気の使用量ですが、エコノートによって使用量の状況が「見える化」され、「前年比較、市内平均比較」などのデータやグラフから、使い過ぎの原因に気づき、節約意識を持ち、皆さん日々の努力で削減に取り組まれていらっしゃいます。ひらかた環境ネットワーク会議では、生活に密着したエコ活動や私たちを取り巻く環境問題を学べ、環境保全意識を高めていくことができます。私も皆さんに負けず、環境のこといろいろと学んでいきたいと思っています。みなさん、ぜひ気軽に事務所にお立ち寄りいただき、いろいろと教えてください。よろしくお願いします。



本計画は、本来、CO₂の新たな削減目標に向けたエネルギー政策の道筋を示すべきものであるが、にもかかわらず、いくつもの問題点があると話されました(以下その問題点)。

- ①低すぎる再生可能エネルギーの導入目標(36~38%)
- ②石炭火力依存(19%)
- ③原子力発電依存(20~22%)
- ④低い省エネ目標(55%)



また気候危機を回避するために私たちにできることとして、

***学習(知ること) *家庭での省エネ行動 *省エネ行動と併せて「仕組み作り」が重要な3つを上げられました。**

そして3つ目の「仕組み作り」という事については、冷蔵庫のフロンガスのことを例にあげ話してくださいました。それによると、『かつては冷蔵庫にはフロンが使われていたが、1992年からドイツのグリーンピースが各国の企業や政府にノンフロンの冷蔵庫の普及活動を開始した。日本でも1993年グリーンピースジャパンが「フロンも代替フロンも使わないグリーンフリーズを選びます!」キャンペーンを開始し、現在ではすべてノンフロン冷蔵庫になっている。』ということでした。つまり二酸化炭素を出さない社会のためにどうした仕組みが必要か?という、**気づいたことを声にする、行動する**、そうすることが社会を変える仕組み作りに繋がるということです。そういうことなら、例えば電気屋さんに行って、「もっと省エネタイプのものはないの」と多くの人言えば、電機メーカーは省エネ商品の開発に力を注ぐかも知れません。再生可能エネルギーで発電している電気会社と契約する人が増えれば、再生可能エネルギーで発電する会社が増えるかも知れません。**声を上げ行動を起こさないと何も変わらない**ということです。

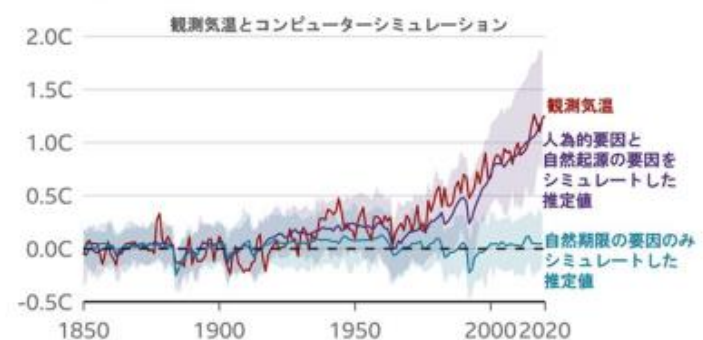
気候危機を回避するカギは「市民・消費者・女性」だと早川先生は締めくくられました。

1.5℃と2℃の影響の違い

	1.5℃	2℃	1.5℃と2℃の差
少なくとも5年に1回、深刻な熱波を被る世界人口	14%	37%	2.6倍
サンゴ礁の減少	70~90%	99%	
北極海に海水の無い夏	少なくとも100年に1回	少なくとも10年に1回	10倍
2,100年までの海面の上昇	0.4m	0.46m	0.06m上昇
熱帯域のトウモロコシの収量の減少	3%	7%	2.3倍

人間活動の影響は疑う余地がない。

「人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきた」
世界平均気温の変化(1850~1900年と比較)



注: 薄い色の領域はシミュレーションごとの可能性が高い範囲
出典: IPCC, 2021年「政策決定者への要約」